

株主の皆様へ

# 株主通信 Vol.10

2012年3月期 第2四半期決算号

2011年4月1日～2011年9月30日

証券コード：4568



## Contents 目次

### P2 社長メッセージ

新製品の発売や癌領域における開発パイプラインの充実など、2011年度上半期における事業基盤の強化・拡大の状況をご報告します。

### P4 新製品(イノベティブ医薬品)のご紹介

### P6 業績の概況と通期の見通し

### P8 グローバル社会貢献活動

「インド、カメルーン、タンザニアにおける移動診療サービスの開始」

## 会社概要

商号	第一三共株式会社 (DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)
資本金	500億円
事業内容	医療用医薬品の研究開発、製造、販売など
従業員数	31,572名(連結)

## 役員

### 【取締役】

代表取締役会長	庄田 隆
代表取締役社長	中山 譲治
取締役	采 孟・荻田 健・廣川 和憲・佐藤 雄紀
社外取締役	沖本 隆史・平林 博・石原 邦夫・安西 祐一郎

### 【監査役】

常勤監査役	小池 和夫・千葉 崇
社外監査役	山田 昭雄・石川 重明

## 連結子会社

102社

## ▶所有者別株式分布状況

	持株数(千株)	持株比率(%)
政府及び地方公共団体	0	0.00
金融機関	300,443	42.37
金融商品取引業者	26,349	3.72
その他の法人	45,307	6.39
外国法人等	206,317	29.10
個人その他	125,490	17.70
自己株式	5,103	0.72

## ▶株式の状況

【発行可能株式総数】  
2,800,000,000株  
【発行済株式の総数】  
709,011,343株  
(自己株式5,100,989株を含む)  
【株主数】  
112,687名

## ▶株主名簿管理人連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社  
証券代行部  
〒137-8081  
東京都江東区東砂七丁目10番11号  
TEL.0120-232-7111(通話料無料)

※各情報は2011年9月30日現在のものです。



## 社長メッセージ

2011年11月  
代表取締役社長 兼 CEO

中山 讓治

株主の皆様には、日頃より当社の経営にご理解を賜り、誠にありがとうございます。

当社は、多様化する医療ニーズにお応えするべく、イノベーター医薬品、エスタブリッシュト医薬品(ジェネリック医薬品及び長期収載医薬品)、ワクチン、OTC(薬局・薬店で販売されている一般用医薬品)を当社の基幹事業として位置づけ、中長期の成長を実現するための事業基盤の強化・拡大を進めております。

つきましては、2011年度上半期(2011年4月～9月)における進捗状況をご報告いたします。

### 1. 日本国内で新製品を次々に発売

2010年度の4つの新製品に続き、2011年度上半期には、3つの新製品を発売しました。

#### 6月8日 NMDA受容体拮抗アルツハイマー型認知症治療剤「メモリー」の発売

欧米では中等度から高度アルツハイマー型認知症治療の標準薬の一つであり、日本国内の患者さんや医療現場から発売が待ち望まれていた「メモリー」を発売しました。

※製品の詳細については、4ページをご覧ください。

#### 7月19日

#### 経口FXa阻害剤「リクシアナ」を発売

日本で初めての経口FXa阻害剤エドキサバンを製品名「リクシアナ」として、下肢整形外科手術領域における血栓塞栓症予防の適応で発売しました。この適応症に該当する患者さんの数は決して多くはありませんが、現在進行中のグローバルフェーズ3試験に基づく2つの適応<sup>※</sup>での承認取得後には、非常に多くの患者さんの治療に貢献し、エドキサバンの製品価値が大きく拡大することを期待しております。

※心房細動に伴う血栓塞栓症の予防、及び、深部静脈血栓症、肺塞栓症患者における静脈血栓塞栓症の二次予防の適応。

#### 9月15日 プロトンポンプ阻害剤「ネキシウム」を発売

アストラゼネカ社が創製した世界で最も販売実績のあるPPI(プロトンポンプ阻害剤)であり、グローバル医薬品市場の全品目の中で第4位(2010年)の売上を誇る大型製品「ネキシウム」を日本で発売しました。

「ネキシウム」は、将来の業績拡大に大きく寄与する主力製品の1つへと成長することを期待する製品です。

※製品の詳細については、5ページをご覧ください。

### 2. 癌領域の開発パイプラインが充実

将来の成長力や競争力を獲得するため、当社は第2期中期経営計画の重点課題として「癌領域におけるワールドクラスのパイプライン確保」を掲げ、パイプラインの拡充を図っています。内部プロジェクトの進捗に加え、今年4月のPlexikon Inc.(以下、プレキシコン)の買収により、癌領域の開発パイプラインは確実に充実してきました。

#### 8月下旬 転移性メラノーマ(悪性黒色腫)治療剤「Zelboraf」の承認取得・発売(米国)

転移性メラノーマ(悪性黒色腫)治療剤「Zelboraf」(一般名: vemurafenib)は、プレキシコンが創製し、ロシユグループと共同開発を進めてきたものです。欧米で、極めて短期間での承認申請を果たし、8月には米国で承認を取得・発売されました。

米国において転移性メラノーマは、重篤かつ患者増加率の高い疾患でありながら、これまで治療薬が限られていました。「Zelboraf」の転移性メラノーマの治療への貢献が期待されます。

### 3. インドにおける更なる事業成長

ランバクシーは、2009年より、インド市場での確固たるポジション獲得を目指したViratプロジェクトを推進しています。営業要員の4200名体制への拡充、製品ラインアップの拡充、そして、同社が強みとする都市部での事業展開や急性期疾患領域への取り組みを強化しています。さらに、成長余力のある地方へのリーチの拡大、病院市場へのプロモーションの注力、慢性疾患領域への展開も行っています。2011年に入り、インド国内における同社の成長率はすでに医薬品市場全体の成長率を上回る伸びを示しており、本プロジェクトの成果が着実に始まっています。

### 4. 小名浜工場は8月末より生産を再開

3月11日の東日本大震災の影響により操業を停止しておりました小名浜工場は、8月末より生産を再開いたしました。同工場の主要生産品(原薬)であるプラバスタチンの在庫を払底させることなく、通常操業に戻っております。最終製品(製剤)を生産する平塚工場も、夏の節電にも適切に対応し、通常操業となっています。これらの取組みにより、オルメサル

タン等主力品の安定供給に、特段の問題はありません。今般の震災を機に、海外工場も含めた生産の分散化などの新たなスキームを確立させる必要があると判断しており、検討に着手しています。

### 株主の皆様へ

日本は第三共のホームグラウンドであり、高齢化が進展している国でもあります。今まで治らなかつた患者さんを治すことができるイノベーター医薬品の創出はもちろんのこと、OTC医薬品によるセルフメディケーションの推進、経済的かつ高品質なジェネリック医薬品や子供たちの健康に貢献するワクチンを提供することは、今後の日本社会への貢献において不可欠な取組みです。

私たちは、これらすべての面で社会的なニーズに応えることができる企業としての成長を目指すことで、日本のみならず世界中の国々で求められる製薬企業のあり方を具現化してまいります。

株主の皆様には当社グループの挑戦にご期待いただき、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 新製品(イノベティブ医薬品)のご紹介

2011年度上半期に発売した新製品をご紹介します。

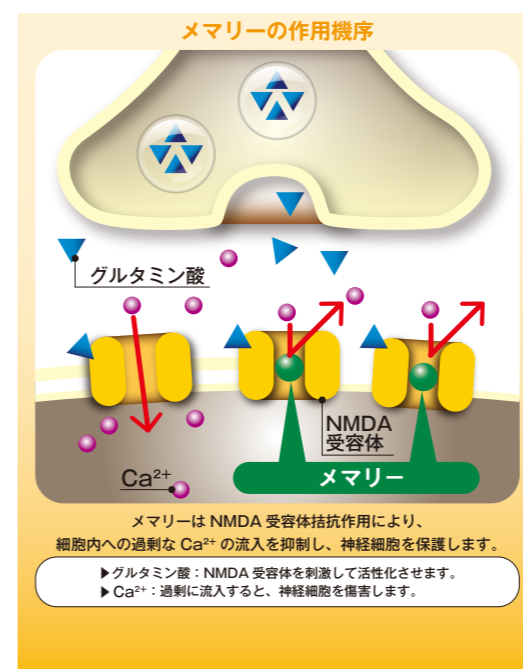
### NMDA受容体拮抗アルツハイマー型認知症治療剤 「メマリー」



「メマリー」はドイツのメルツファーマシューティカルズにより創製された世界で唯一のNMDA受容体拮抗作用機序とするアルツハイマー型認知症治療剤です。本剤は、世界70カ国で使用されており、2011年6月8日より当社が日本での販売を開始しました。厚生労働省の高齢者介護研究会報告書「2015年の高齢者介護」によれば、日本における認知症の患者さんは、2015年には250万人になると予測されています。

また、「認知症疾患治療ガイドライン2010」によれば、日本の65歳以上の高齢者におけるアルツハイマー型認知症の有病率は3・8～11・0%にのぼると報告されており、近年では若年性アルツハイマー型認知症という40～50代の発症率も増加傾向にあります。アルツハイマー型認知症の進展に関わる要因は幾つか知られていますが、グルタミン酸神経系の異常な亢進もその一つとされています。「メマリー」は、グルタミン酸受容体の一つであるNMDA受容体を阻害し、神経細胞への過剰なカルシウムイオンの流入を妨げることで神経細胞を保護し、神経細胞死を回避することにより、症状の進行を抑制します。

アルツハイマー型認知症は、薬剤により症状の進行を抑制できることが確認されていますが、未だ完治できる治療法が見つかっていない、アンメットメダイカルニーズ(未充足の治療ニーズ)が高い疾患の一つです。これまで長きにわたり日本において使用できる治療薬は1剤に限られていましたが、既存薬



### プロトンポンプ阻害剤

## 「ネキシウム」

「ネキシウム」は、アストラゼネカ社が創製したプロトンポンプ阻害剤(PPI)オメプラゾール(製品名:「オメプラール」)の二方の光学異性体で、胃酸分泌の最終過程を担うプロトンポンプを選択的に阻害することにより、強力な胃酸分泌抑制効果を発揮し、酸関

連疾患に対して優れた臨床効果を発揮する薬剤です。これまでに世界の120以上の国と地域で発売され、豊富な使用実績を有する本剤を、2011年9月15日に日本で発売しました。「ネキシウム」は、逆流性食道炎や非

びらん性胃食道逆流症など、「オメプラール」が取得している効能・効果に加え、医療現場からのニーズの高い、非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍または十二指腸潰瘍の再発抑制の効能・効果を取得しています。

胃酸関連疾患の治療には、従前、ヒスタミンH<sub>2</sub>受容体拮抗薬(H<sub>2</sub>ブロッカー)が多く使われていましたが、現在では、より優れた効果を発現するPPIがH<sub>2</sub>ブロッカーに代わってシェアを伸ばしています。

日本におけるPPI市場は2009年度で2000億円以上と言われますが、高齢化の進展や生活習慣の欧米化などによって逆流性食道炎の患者さんが増えていることから、年率20%程度の市場拡大が続くものと予測されます。

またPPIを処方されている患者さんの3人に2人は投薬治療後も症状が残り、5人に1人は処方薬に加えて一般

用医薬品を併用しているという調査報告もあります。当社は、「ネキシウム」が患者さんのQOL(Quality of Life: 生活の質)向上に貢献できる余地は大きいと見えています。

「ネキシウム」は、特に診療科を限定することなく全国の病院・医院での処方が見込まれるうえ、PPI市場と当社主力製品「オルメテック」等の処方市場との重複も大きいことから、当社はアストラゼネカ社との強力な連携のもと、多くの医療現場に積極的に情報提供を行っています。

## 連結決算の概要

### 売上高

高血圧症治療剤オルメサルトンなどの伸長に加え、当期に新発売したNMDA受容体拮抗薬「メマリー」や「ネキシウム」や「プロトンポンプ阻害剤「ネキシウム」を含む昨年からの新製品が寄与しました。しかしながら、円高に推移した為替の影響190億円に加え、販売移管に伴う国内医薬の売上高減少、ランバクシーの売上高減少などの影響もあり、前年同期比8.6%減の4560億円となりました。

### 利益

ランバクシーの前期業績に大きく寄与した米国における抗ウイルス剤バラシクロピルの売上高減少などに加えて、合成抗菌剤レボフロキサシンの輸出額の減少や前期にあったデノスマブの一時金収入などが影響し、営業利益は前年同期比31.0%減の622億円、経常利益は前年同期比28.4%減の663億円、四半期純利益は前年同期比29.0%減の370億円となりました。

## グループ別業績



### 第一三共グループの業績

第一三共グループの売上高は、3,778億円(前年同期比5.6%減)となりました。

#### 日本

日本の売上高は、2,407億円(前年同期比7.4%減)となりました。

国内医薬では、消炎鎮痛剤「ロキソニンテープ」、高血圧症治療剤「レザルタス」などの伸長に加え、当期に新発売した「メマリー」や「ネキシウム」などが寄与しましたが、導入元等への販売移管品目の影響を受け、売上高は2,063億円(前年同期比5.0%減)となりました。

輸出医薬では、各国での独占販売期間満了に伴う合成抗菌剤レボフロキサシンの輸出額減少や円高の影響などにより、売上高は103億円(前年同期比48.7%減)となりました。

ヘルスケア(OTC事業)では、スイッチOTCの消炎鎮痛剤「ロキソニンS」などが伸長し、売上高は224億円(前年同期比6.7%増)となりました。

#### 北米

北米の売上高は、910億円(前年同期比5.1%減)となりました。抗血小板剤「エフィエント」などの伸長に加え、当期に買収したプレキシコンでの「Zelboraf」関連の収入などが寄与しましたが、円高の影響や貧血治療剤「ヴェノファー」の売上高の減少などにより、減収となりました。

#### 欧州

欧州の売上高は、325億円(前年同期比3.6%増)となりました。高血圧症治療剤「オルメテック」、「セビカー」、「セビカーHCT」などの売上拡大により、増収となりました。

#### その他の地域

その他の地域の売上高は、136億円(前年同期比4.8%増)となりました。韓国、ベネズエラ、ブラジルなどにおける売上高増加により、増収となりました。

### ランバクシーグループの業績

ランバクシーグループの売上高は、782億円(前年同期比20.6%減)となりました。

ランバクシーグループの売上高は、米国においてアルツハイマー型認知症治療剤ドネベジルが寄与しましたが、前期業績に大きく貢献した抗ウイルス剤バラシクロピルの売上高が今期は大幅に減少したこと、及び円高の影響などにより、782億円(前年同期比20.6%減)となりました。

## 主要会社・主要製品別売上高

### 第一三共株式会社(日本)

(単位:億円)

	2011年度 第2四半期累計	2010年度 第2四半期累計
オルメテック(高血圧症治療剤)	409	418
ロキソニン(消炎鎮痛剤)	301	269
メパロチン(高コレステロール血症治療剤)	174	203
クラビット(合成抗菌剤)	168	153
メマリー(アルツハイマー型認知症治療剤)	39	—

### ルイトポルド・ファーマシューティカルズ Inc.(米国)

(単位:億円)

	2011年度 第2四半期累計	2010年度 第2四半期累計
ヴェノファー(貧血治療剤)	129	161

### 第一三共 Inc.(米国)

(単位:億円)

	2011年度 第2四半期累計	2010年度 第2四半期累計
ベニカー/ベニカー HCT(高血圧症治療剤)	369	421
エイゾール(高血圧症治療剤)	60	72
トライベンゾール(高血圧症治療剤)	23	7
ウェルコール(高コレステロール血症治療剤/2型糖尿病治療剤)	136	144
エフィエント(抗血小板剤)※共同販促収入	33	11

### 第一三共ヨーロッパ GmbH(欧州)

(単位:億円)

	2011年度 第2四半期累計	2010年度 第2四半期累計
オルメテック/オルメテックプラス(高血圧症治療剤)	175	172
セビカー(高血圧症治療剤)	50	40
セビカー HCT(高血圧症治療剤)	15	—

## 財務データ(抜粋)

(単位:億円)

	2011年度 第2四半期累計	2010年度 第2四半期累計
売上高	4,560	4,989
営業利益	622	901
経常利益	663	926
四半期純利益	370	522
研究開発費	841	893
純資産	8,944	8,921
総資産	14,722	14,650

### 営業利益のポイント

全社的な損益構造の見直しを通じて経費を圧縮していることに加え、円高に推移した為替の影響で、海外における販売費及び一般管理費や研究開発費が減少しました。しかしながら、売上高減少に伴う売上総利益の減少の影響が大きかったことから、279億円の減益となりました。

### 経常利益のポイント

営業利益段階までの減益要素以外に、営業外損益においてはランバクシーのデリバティブ評価益が減少したものの、為替差益の寄与もあり、営業利益に比較して減益幅は縮小し、263億円の減益となりました。

### 四半期純利益のポイント

当期の税引前利益の減少の結果、法人税等が減少しましたが、ランバクシーの減益に伴い少数株主損益も減少し、結果、当期の四半期純利益は151億円の減益となりました。

## 業績予想修正について

第2四半期決算発表とあわせて、2011年7月29日に公表済みの2012年3月期連結業績予想の修正を発表しております。

売上高につきましては、円高基調の長期化を勘案し、第3四半期以降の想定為替レートを1米ドル75円、1ユーロ105円に変更しました。また、米国子会社であるルイトポルド社の減収要因などを織込み、前回予想から400億円下方修正し、9300億円の見込みとなりました。

営業利益につきましては、研究開発、国内事業、米国事業などにおける経費節減等の効果が見込めることから、今般、100億円増の1000億円へと上方修正します。

経常利益及び当期純利益につきましては、営業利益段階での上方修正があるものの、近時におけるインドルピーの対米ドルレート下落に伴ってランバクシーで為替差損の発生が予想されるため、前回の予想を変更しないことといたしました。

### 2012年3月期 修正連結業績予想

売上高  
9,300億円  
前年同期比 374億円減

営業利益  
1,000億円  
前年同期比 221億円減

経常利益  
900億円  
前年同期比 418億円減

当期純利益  
500億円  
前年同期比 201億円減

# グローバル社会貢献活動 「インド、カメルーン、タンザニアにおける 移動診療サービスの開始」



## 医療アクセスの改善に取り組む 第三共グループ

乳幼児死亡率の削減。妊産婦の健康の改善。そして、HIVやエイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延を防止すること。

これらは、開発途上国の貧困問題の解決のために国連や各国政府などの諸機関が共通目標として掲げた「国連ミレニアム開発目標(MDGs)」の中で、医療周辺にかかわる課題であり、期限(2015年)までの目標達成が困難と見られている分野です。

こうした世界の医療問題の解決に積極的な役割を果たすことは、グローバルに事業を展開する製薬企業としての私たちの使命であるとの認識に立ち、第三共グループは今秋より、インド、カメルーン、タンザニアで移動診療サービスを開始しました。

### 活動事例1

#### インド マデリア・プラデーシ州 への支援

インドは全世界の5歳未満死亡人口の約20%を占める国であり、その中でも特に乳幼児や妊産婦の健康問題が大きい地域の1つが、マデリア・プラデーシ州デワス地区です。当社はここを、インドにおける活動地域と定め、全体的な主導を第三共が、行政や病院などとの調整やサポートをランバクシーが、活動の執行・管理を、ランバクシーによって設立されたRCHS(ランバクシー・コミュニティ・ヘルスケア・ソサエティ)が行う三者協同体制のもと、当該地区に新たに2台の移動診療車を追加して、医療サービスの強化を進めています。

### 活動事例2

#### カメルーン、タンザニア における支援

アフリカにおいてMDGsの達成状況が悪く、かつランバクシーが事業を展開している国を検討した結果、カメルーンとタンザニアを活動地域に決めました。ランバクシーがこれまで培ってきた移動診療サービスに関する豊富なノウハウと経験を活かしながら、国際NGOであるフラン・ジャパンの協力を得て、同国で、基礎的医療やワクチンの提供、妊産婦健診などの移動診療サービスを提供しています。

### Column

#### 医療過疎地に有効な移動診療車

基本的な医療機器もしくは医療設備を備えた移動診療車は、その機動性を活かし、道路や鉄道などのインフラが整っていないために医療施設へのアクセスが困難な「医療過疎地」においても、基礎的医療、予防接種、妊産婦・乳幼児健診、医療に関する情報提供や啓発教育などをを行うことができます。第三共グループでは、すでに、第三共INC(米国)やランバクシー(インド)が移動診療車による医療サービスを展開するなど、多くの実績を残しています。



詳細は「CSRレポート」をご覧ください。  
<http://www.daiichisankyo.co.jp/csr/report/index.html>

つくっているのは、希望です。

## 第一三共株式会社

〈お問い合わせ先〉コーポレートコミュニケーション部  
TEL.03-6225-1125 / FAX.03-6225-1132  
〒103-8426 東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号  
<http://www.daiichisankyo.co.jp/>

株主の皆様の声をお聞かせください。下記URLにアクセスいただき、「株主様アンケート」のリンクよりアンケートサイトに入り、ご回答ください。(所要時間は5分程度です。)

<http://www.daiichisankyo.co.jp/ir/data/business/index.html>

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。